

みんながつづる 牡鹿半島の豊かな暮らし

いんふおおしが 11

2017



～げんきにわっしょい～ 牡鹿地区保育所運動会

文化財レスキューで鮎川を元気に!!

牡鹿のみなさん、はじめまして! 東北学院大学の佐藤麻南(さとうあさみ)と申します。今回、いんふお・おしかの誌面をお借りして活動紹介をさせていただくことになりました。

私たちは、東日本大震災後に鮎川公民館の隣にあった収蔵庫に保管されていた民具、町誌編さん資料を救出し、保全する文化財レスキューの活動を行ってきました。2012年からは毎年夏にそれらの民具を展示し、地域のみなさんにみてもらう活動も行ってきました。



2014年 冬、「牡鹿半島の暮らし」展



石巻市鮎川収蔵庫での文化財レスキュー

2016年からは石巻市復興まちづくり情報交流館で展示を行っています。

展示の回数を重ねるごとにたくさんの方に見に来ていただき、民具を見ながら昔の道具の使い方や、思い出のエピソードなど文献資料からは読み取れない個人の暮らしのお話をたくさん聞かせていただくことができました。民具を見て「なつかしい」とか「昔はこうだったのよ」と楽しそうに、時には涙ぐみながらお話をしてくだ



2014年夏、「牡鹿半島・海の暮らしの風景」展

さる方もおり、私たち学生にとっても貴重な経験となりました。

そんな中、2014年には、地域の方から昭和初期～中期の鮎川の風景や初期の頃の鯨まつりの写真をたくさん提供いただき、これらの写真の展示も行いました。

また、ここでは民具とはまた違った昔の暮らしのお話を聞き、牡鹿で暮らしてきた人々が昔から大事にしてきた文化や暮らしに触れることができました。

2016年は、情報交流館でロイ・チャップマン・アンドリュースが撮影した100年前の鮎川の風景の写真展を開催し、近代捕鯨

とともに発展してきた鮎川の歴史や街並み、捕鯨産業とともに営み続けてきた人々の暮らしについて理解を深めることができました。2017年の夏に行われた【描かれた神体島 日本画家・平山郁夫が描いた「金華山の朝陽」】の展示に引き続き、11月中旬から情報交流館で「昔のくらしと民具」展を開催します。ぜひ、展示を見に来て、みなさんの昔の暮らしや思い出のエピソードをお聞かせください!

原稿寄稿 東北学院大学
牡鹿半島思い出広場実行委員会
佐藤 麻南



2017年夏、「描かれた神体島」展